

学習内容報告書 フォーマット

学校名	千葉県市原市立姉崎東中学校
授業者	木内 裕佑

1. 単元計画

- ・千葉県と関わりのある海洋生物である「イワシ」について、インターネットを中心とした調べ学習を行う。
- ・調べた学習に基づいた実地調査（イワシ資料館訪問、地引網漁体験による捕獲魚種の調査）を行う。
- ・これまでの学習・調査内容を踏まえ、各自パワーポイントを使い、ポスター形式でまとめ、報告する。
- ・他の人のポスターを見て、評価を行う。その後、海洋環境と人間の関わりに関する最終的な結論を各自で導出する。

1-1. 単元名

1. 海に親しむ活動 2. 海を知る活動 3. 海を守る

1-2. 学年

中学校第2学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

- ①千葉県と関わりのある海洋生物である「イワシ」について、インターネットを中心とした調べ学習を行う。
 - ・千葉県の漁業に関する授業の中で、タブレットを活用した調べ学習を班ごとに行い、発表しあう。
- ②調べた学習に基づいた実地調査（イワシ資料館訪問、地引網漁体験による捕獲魚種の調査）を行う。
 - ・イワシ資料館を訪問し、千葉県とイワシの関係について調べる。
 - ・イワシの漁獲量が年に応じて変化していることに着目し、実際に漁を行っている人の話を聞きに行く。
- ③これまでの学習・調査内容を踏まえ、各自パワーポイントを使い、ポスター形式でまとめ、報告する。
 - ・パワーポイントを用いてポスター形式で調査した内容を報告する。
- ④他の人のポスターを見た後、海洋環境と人間の関わりに関する最終的な結論を各自で導出する。
 - ・他の人のポスターを評価する。
 - ・一連の学習を通して、感じたこと・学んだことをまとめる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

近年、日本近海における特定の魚の漁獲量が減少していることに伴い、千葉県においては魚種交替が注目を集めている。島国である日本にとって水産資源は重要な資源の1つである。変化する海洋環境に対する認識を深めるとともに、それに対する具体的な対応策を考え、行動に移すことのできる生徒の育成が求められていると言える。このような海洋と人類の関係性や互いの影響に対する理解は、海洋リテラシーと呼ばれている。中学校では教科「総合的な学習の時間」において探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的に地球環境や自然と人間との関わりについて考えることのできる授業の実施が求められている。以上を踏まえ本校では今年度、生徒の海洋リテラシーの獲得・向上に向けた学習活動を2学年「総合的な学習の時間」の中で、「海に親しむ活動」、「海を知る活動」、「海を守る」単元として計画し、行うこととした。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

海洋リテラシーの獲得・向上。具体的には、海洋への興味・関心の向上や、海洋問題へ主体的に参画する態度の育成。

1-7. 単元の展開（全8時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県漁業に関する解説を聞く。 ・教員からの発問に対して、インターネットを使って調べたデータに基づいて回答する。 ・千葉県におけるイワシに関する漁業がどのような傾向にあるか、班でまとめて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使った授業を行い、スライドの中で千葉県の漁業に関する質問を投げかける（行動観察）。 質問の内容は <ul style="list-style-type: none"> ①千葉県の魚介藻類生産量の全国順位 ②マイワシ・カタクチイワシその他の生産量の推移 ・データから千葉県の漁業の現状について、どんなことが言えそうかを考えさせる。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋学習実行委員会を中心とした、海での過ごし方や安全面についての学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に作成した資料に従って、海の危険生物や離岸流などの危険な場所、もしも沖に流されてしまった場合など、さまざまな危険性とその対抗策を伝達させ、確認させる（行動観察）。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・九十九里イワシ資料館に行き、イワシと千葉県の関係について調査する。 ・千葉県九十九里で伝統的に行われてきた地曳き網漁の漁師の方の話を聞き、イワシ漁の現状をきく。 ・漁師の方が漁に出られないときの海での過ごし方を聞き、体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面に配慮した体験活動を行わせる（行動観察）。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・獲れるイワシの種類が変化してきたことの一つに、魚種交替というものがあることを学ぶ。 ・魚種交替がどのような理由で起こるのかを調べる。また、それによって千葉県の漁業がどのように変わりつつあるのかを、学習した内容と踏まえてパワーポイントにポスター形式でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚種交替について、簡単に説明する。 ・調査・学習した内容をレポートにまとめさせる。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートにまとめた内容をポスター形式で提出する。 ・他の人たちにまとめた内容を報告する。 ・他の人のポスターを読み、自分の考えを感想としてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターにまとめた内容を提出・報告させる（レポート評価）。 ・感想を書かせる。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ


単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・九十九里イワシ資料館に行き、イワシと千葉県の関係について調査しよう。
- ・千葉県で行われてきた地曳き網漁の漁師の方の話を聞き、イワシ漁の現状をきくとともに、漁師の方の海での過ごし方を体験しよう。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 九十九里イワシ資料館に行き、イワシと千葉県の関係について調査しよう </div> <p>・九十九里イワシ資料館に行き、イワシと千葉県の関係について調査する。</p> <p><生徒の反応></p> <p>資料館には、江戸時代から九十九里で行われていたイワシ漁についての歴史の説明や、漁村での暮らし、実際に漁の際に使われていた道具などの展示がされており、生徒は熱心に学習に取り組んでいた。</p> 	<p>・生徒の活動に同行する。</p> <p><評価の視点></p> <p>・千葉県で行われてきたイワシ漁業に関して、意欲的に調査に取り組める（行動観察）。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 千葉県で行われてきた地曳き網漁の漁師の方の話を聞き、イワシ漁の現状をきくとともに、漁師の方の海での過ごし方を体験しよう </div> <p>・千葉県九十九里で伝統的に行われてきた地曳き網漁の漁師の方の話を聞き、イワシ漁の現状をきく。</p> <p>・地曳き網業者「丸吉」から、地曳き網の仕方や、漁師がどのように過ごしているか聞き、その生活の一部を体験する。</p>	<p>・安全に留意して、生徒たちが活動できるように働きかける。</p> <p><評価の視点></p> <p>・イワシ漁の現状を把握すると共に、漁師の方の説明</p>



を聞き、その暮らしを体験しようと、意欲的に取り組める（行動観察）。

3. 今回の活動の自己評価

新型コロナウイルス感染症への対応に迫られ、当初予定していた活動とは一部異なる実践をすることとなったものの、体験活動として九十九里イワシ博物館に行ったり、地曳き網漁師の活動体験をさせてもらったりと、限られた中でも十分に海洋学習を展開することができた。

また、変更後の予定では地曳き網を体験することも計画していたが、天候の関係で海が荒れ、できなかった。しかし、この体験によって、生徒は自然の力強さや雄大さを、実感を伴って学ぶことができた。人間は自然にはかなわない、という体験的な活動が、生徒の海洋リテラシーを育むことにつながる、という新たな知見を得ることができた。

また、海洋学習の進捗状況を学校ホームページに掲載するとともに、生徒の作成したポスターを保護者面談の期間に併せて掲示することで、より効果的に生徒と保護者が海洋に関する話題を会話の中で出せるように取り組むことができたと思う。有意義な学習活動が行えたと思う。

4. 今後の課題

昨年度よりも早い段階から準備を進めることができた。海洋学習実行委員会を中心に資料を作成し、海での安全面の指導なども事前に行うことができた。一方、昨年度に引き続き、地曳き網体験を天候不良の関係で行うことができなかった。できなかったことが海への畏敬の念を育むことにつながっていることは間違いないが、体験はやらせてあげたい。今後、もし同様の学習を行う機会があるならば、天候に左右されにくい海洋にまつわる体験学習を計画していきたいと思う。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・資料館の写真は、生徒の活動記録として公開しているため、資料館の展示物を中心として掲載することはしないでください。
- ・学校事情により、学校外で写真等の記録を使用することができません。ご了承ください。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。